

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. C-7

部門名：地域とともにある学校実践部門 エントリー名：徳島県立阿南光高等学校

活動名：あこうバンブーミクス ～放置竹林を宝の山に変える取り組み～

解決すべき課題：

徳島県はかつて、タケノコの出荷量が全国第1位であったが、生産者の高齢化や後継者不足などにより、放置竹林が増え、地域の里山の生態系に影響を及ぼしている。また、本校は地域最大の避難所に指定されているため、南海トラフ大地震に備え、避難者が少しでも快適な避難生活を送るための設備の充実が喫緊の課題となっている。

目標・方針：

阿南市内のNPO法人竹林再生会議と連携し、放置竹林の伐採および、その竹を活用した商品開発に取り組んでいる。竹に秘められた特性を生かし、タケノコだけに頼らない新たな竹産物を地域に創出し、地域に根ざした伝統産業へと成長させることを目標にしている。

活動内容：

本校生徒が毎週、NPO法人が所有する放置竹林において伐採を行い、その竹を有効活用した商品開発に取り組んでいる。震度5強以上の揺れを感知するか、倒れるかすると自動点灯する懐中電灯「ぼてっとライト」(写真1)や簡易照明「ぶるっとライト」(写真1)は県内の離島や各施設に無料配布され(写真2)近隣中学校においては技術教材(写真3)として採用されている。また、竹パウダーに含まれるバクテリアの力を利用したバイオトイレ「ぶりフリー」(写真4)など、本校オリジナルの防災用品は、全国規模のアイデアコンテストにおいて高い評価を得ている。昨年度は、生徒自らが竹から漉いた紙で卒業証書(写真1)を制作し、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げられた。

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

本校オリジナルの防災用品が2年連続して、全国工業高等学校長協会主催のアイデアコンテストにおいて優秀賞、および最優秀賞を受賞した(写真5)。また、これらを商品化するアイデアが、日本政策金融高校主催の全国高校生ビジネスプランコンテストにおいて第3位にあたる審査員特別賞を受賞(写真6)した。平成30年11月にはイタリアトリノで開催された第43回ジャパンウィークに参加し、本校の取り組みについての展示やワークショップ、交流授業等を行った(写真7)。本校の活動はテレビや新聞、ラジオ等のメディアに度々取り上げられ、多くの方から認知されるようになった。最近では県内の防災イベントから出展依頼が増え、参加生徒のプレゼンテーション能力の向上に役立てられている。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 本校オリジナルの防災用品
- (1) ぼてっとライト・・・震度5強以上の揺れを感知するか倒れるかすると自動点灯する懐中電灯
 - (2) ぶるっとライト・・・震度5強以上の縦揺れを感知すると自動点灯する簡易照明
 - (3) どこでもボワ・・・竹を燃料として使用する移動式かまど
 - (4) かまどベンチ・・・普段はベンチとして、非常時はかまどとしても使用できる防災用かまどベンチ
 - (5) ぶりフリー・・・竹パウダーに含まれるバイオの力を利用した水も電気も必要としないバイオトイレ

写真1 ぼてっとライト(左) ぶるっとライト(右)



写真2 平成28年12月4日徳島新聞



写真3 ぼてっとライト中学校出前授業



写真4 ぶりフリー



写真5 平成30年2月1日徳島新聞



写真6 平成31年1月14日徳島新聞



写真7 平成30年10月24日徳島新聞

